

医学部後援会

医学部後援会は、昭和50年3月の設立以来、順天堂大学と順天堂大学医学部卒業生の父母の皆様との連絡を密にすること、卒後の子弟教育の向上に資するとともに、会員相互の親睦を図ることを目的に活動してきました。

白岩照男前会長の6年間で多くの改革をいたしました。会の運営資金のその多くは卒業時にお支払いいただく会費収入です。会員資格は終身制をとっておりましたが、平成26年度の入会者からは卒後25年とし、その後も会員継続をご希望の会員は追加の会費は不要で会員資格を継続できると改めることを検討しております。卒業生のご父母全員に会員になっていただきたく、事業活動の改革を進めております。

毎年6月の第4土曜日午後に総会を開催いたします。総会には後援会の活動を少しでも多くの会員の皆様にご理解いただきたくホームカミングデーを設けて、卒後1年、3年、5年、10年、15年、20年の会員を懇親会にご招待しております。総会では一般的な審議事項に続いて、「地域医療・学術奨励賞」の授賞式を行います。また、毎年講師の先生を大学からお呼びしてお話を伺っています。昨年は整形外科学の金子和夫教授にご講演いただきました。

金子教授からは、海外で手術などを行う臨床研修に医局から派遣して、専門性の高い医療技術を短期間で習得しているとの内容を沢山の画像とともにお話しいたいただき、感銘を受けました。

地域医療・学術奨励賞は原則として卒後10年前後の優れた実績のあった方を表彰しています。今回で4回目の募集です。平成25年10月に応募案内を各講座主任教授、順天堂関連病院等に送付しました。また、同窓会のご厚意により10月に発行された「茶崖」152号にも募集要項が掲載されました。会を重ねるごとに応募者が増えて、今回も昨年と同様に4件の応募がありました。昨年は生化学の長岡教授と整形外科学の金子教授に、今年は長岡教授に審査委員会にご参加いただきました。原則として卒後10年前後の方を対象にしており、どなたも研究面では基礎と臨床で多くの成果を發表されています。地域医療活動でも、診療科によって偏りはありますが、多くの応募者が熱心に地域医療活動に取り組んでいました。今年度の受賞者は、乳腺内分泌外科の中井克也准教授（平成7年卒）、整形外科学の長尾雅史非常勤助教（平成14年卒）、順天堂浦安病院脳神経内科の宮元伸和助教（平成13年卒）の3名に決定しました。受賞者の皆様には6月の総会で授賞式にご参加いただきます。今後も原則として卒後10年前後の研究面で論文も多く、地域医療活動でも実績のある方の応募を期待いたします。また、推薦状をお書きいただいた指導教授の先生方にもこの場を借りて御礼申し上げます。

今年度の後援会では、箱根駅伝のお話を中心に宮野武名誉院長に御講演をいただく予定です。一人でも多くの後援会員の皆様に箱根駅伝を応援していただきたいと願っております。

順天堂 175 周年には後援会として 500 万円を寄附させていただきました。また、順天堂からの依頼がお手元に届いていると思いますが、後援会員の皆様もご協力をお願い申し上げます。

平成 26 年度に実施される第 57 回東日本医科学生総合体育大会で順天堂が 23 競技中 8 競技の主管校として運営にあたるため同窓会、父母会と同程度の寄付を予定しています。

医学部後援会は卒業生の御父母の皆様にご協力をお願いさせていただくことで運営されています。後援会のホームページは順天堂大学のホームページのトップから入れます。これからも後援会の活動をホームページで配信してまいりますのでご覧ください。

(医学部後援会 副会長 藤巻 豊)